

# カルシウムの話 VOL 1



シミ・ジャーの水も毎日使い続けると、それが当たり前のようになっています。

でも、外食時の水やよそでいただくお茶やコーヒーで、あらためて味の違いを実感した経験はありませんか？

ご家庭で湧き水のような良い水をふんだんに使える喜びも、その価値がわからなければ半減してしまいます。

それでは、サンゴカルシウムについて、勉強してみましょ。



## 風化造礁サンゴ

サンゴというと植物のように見えますが、卵もあり、卵子のときには一定期間浮遊し、口から排泄物を出す、刺胞動物のひとつです。

サンゴには数百の種類があり、浅い海底に生息するものと深海に生息するものがあります。そのため、浅瀬のサンゴは造礁サンゴ、深海のサンゴは非造礁サンゴと呼ばれています。

「風化造礁サンゴ」は、造礁サンゴが長い時間をかけて、波の浸食作用でバラバラに破壊され、海底に堆積した砂状の化石です。

沖縄県が認めた海域から、国土交通省所管国有財産取扱規則、沖縄県海砂利採取要綱、沖縄県漁業調整規則に則り、計画的に採取し、乱掘が起こらないように、管理されています。

弊社が使用している風化造礁サンゴは、自然破壊とは無縁の貴重な天然資源です。



## 優れたサンゴの含有成分

風化造礁サンゴの主成分は、炭酸カルシウムとマグネシウムなのですが、水に溶けやすくイオン化しやすい種類であることがわかっています。

その含有量も炭酸カルシウムが35～40%、マグネシウムが2～3%と非常に多く、一般的にカルシウム剤として使用されているカキ殻が、カルシウムが36%前後、マグネシウムが0.5%以下といわれていますから、特にマグネシウムの含有量は注目に値します。

マグネシウムはカルシウムの吸収にも、人体の細胞活動でカルシウム、ナトリウム、カリウムの相互作用にも不可欠のミネラルです。

風化造礁サンゴは、これらを豊富に含む、まさに海の恵みなのです。



## こだわりの未焼成サンゴ

海底から採取されたサンゴはきれいな場所で洗浄されて塩分や不純物が取り除かれます。

塩分が完全になくなるまで、繰り返し洗浄されたサンゴは次に100～900の温度で殺菌乾燥されます。

この時の温度でサンゴは（温度の低い順から）食品・食品添加物・pH調整剤・土壤改良剤に変化します。（弊社では必要最低限の温度で殺菌乾燥をおこなっています。）

最後に目的の大きさに応じた微細粉碎と選別の過程を経て、各種の製品に使われます。（高温で処理したサンゴは焼成サンゴといい、柔らかな黄ばみがなくなり、灰色か黒に近い色になっているので、ひと目で違いが判ります）

弊社では殺菌に必要な最低限の熱処理でとどめたサンゴを未焼成サンゴと呼び、それ以外のサンゴは使用していません。

それはサンゴが本来もっている炭酸カルシウムやマグネシウムなどの大切なミネラルを熱によって変化させないための配慮です。必要以上の熱を加えると、せっかく吸収の良い炭酸カルシウムが酸化カルシウム（生石灰）に変化してしまいます。

一般的に使用されている焼成サンゴとは、カルシウムひとつをとってもその種類が違っているのです。

「天然の素材を天然のまま使いたい」これが未焼成サンゴを使い続ける、シミ・ジャー工業のこだわりです。